

## 福井県民生協 2013年度 第1回震災ボランティアバス活動報告

日時：2013/06/21(金) 21:00 ～ 6/23(月) 23:00

行先：宮城県石巻市牡鹿半島小湊浜他

主催：NPO 未来ビレッジ JAPAN 共催：福井県民生協

参加：全体で 33 人、うち生協関係者 8 人

昨年に続き、福井県内の NPO 未来ビレッジ JAPAN との共催で、宮城県石巻市へのボランティアバスを企画し、福井県より 33 人の参加がありました。

今回は、牡鹿半島小湊浜の仮設住宅でのプランター野菜づくり、「花咲かせようキャンペーン」で組合員から寄せられた花の種まき、また地元の NPO からの要請を受け、古民家再生のお手伝いをしました。

なお 9 月下旬には、2013 年度第 2 回ボランティアバスを企画する予定です。

### 【主なボランティア活動内容】

#### <初日>

(22 日午前) 敦賀の産直生産者でもある樋口先生が仮設住宅の方を対象に、プランター野菜(なす・トマト・きゅうりなど)の講習会を開催。この補助や、出来たプランターの仮設住宅への配達を行いました。



(22 日午後) 仮設住宅から小学校までの通学路となっている道路を中心に、周辺の草取り。



## <2日目>

隣の地区で行っている古民家再生プロジェクトのお手伝い（力仕事は男性、女性は草取り）。



### 【訪問した現地の状況や現地の方と交流したこと】

- ・ 初日のプランター野菜の講習会では、地域の方が20～30人ほど参加してくださり、樋口先生や、お手伝いしたボランティアとの会話も弾み、和やかなひとときを過ごしました。後から聞いた話ですが、「仮設に長い間住んでいると外に出る機会が減り、（野菜づくりなど）継続して作業ができることがあると生きがいになります。本当にいい企画です」と現地の方がおっしゃっていたそうです。
- ・ 「ボランティアの数は減ってきているし、ボランティアといえば瓦礫の撤去というイメージが強いかもかもしれませんが、支援の形はそれだけではないし、何も出来なくても現地に足を運んでもらえることが嬉しい」とおっしゃっていました。
- ・ 宿泊の「あたご荘」（右写真）がみごとに復活しておりびっくり！ 嬉しくて嬉しくてオーナー達との再会を喜びました（こんなに嬉しいことはありませんでした）。仮設住宅生活の様子に心打たれました。報道で見て、仮設住宅の暮らしは何となく分かっているけど、実際はプライバシー全く無しの薄い間仕切り空間で、一時しのぎではなく、1年も2年も住み続けている事に復興はまだまだだな…と強く感じました。
- ・ 海岸はガレキの山で、ダンプカーもひっきりなしに走っていました。1階が流された「あたご荘」は5月にリニューアルしたものの、その周辺はさら地のまま草が生い茂っている状況でした。石巻市内もまだシャッターやアーケードがこわれたままでした。プランターを届けていると、近所の方が「苗を売っているの？」と声を掛けてこられ、仮設の人の分しかない旨伝えようと「私も被災したのにいつも仮設の人ばかり…」と寂しげに帰って行かれました。苗はたくさんあったので分けてあげたらよかった…と自分ではどうすることもできず、つらかったです。



## 【今回参加して感じたこと（感想）、今後に活かしたいこと、他の職員に伝えたいこと】

- ・ 震災から2年以上が経過し、一見環境は良くなってきているように感じますが、まだまだ仮設暮らしの方も多く、がれきの山が残っていたり、不便な生活を強いられていることはたくさんあります。ボランティアの数も減っていて、だんだん震災そのものの意識が風化してきているのも否定できません。支援と交流という形で、現地の人に笑顔になってもらう。そのために自分たちも笑顔で接する、そういった活動がこれから必要になってくるのではと思っています。東日本大震災を忘れないためにも、機会があれば再び東北を訪れて、もっと良くなった現地の姿を見ながら、現地の人たちとの交流を行いたいと思います。
- ・ 3.11 から月日が経過し、ボランティア意識も薄れ、現地入りの人も少なくなっている今こそじっくり現地の人に耳傾け要望、希望に添うことのできるボランティアができるのではないかと思います。地域住民の表情・生活は落ち着きを取り戻しているように見えたが、現地で定住ボランティアをしている代表と連絡を取り合える関係を保ちつつ継続的な支援ができることを望みます。
- ・ 5月の連休に組合員さんと2人で計画を立て、仙台や東松島へ行きました。今回、被害が大きかった石巻の様子を知りたいと思い参加しました。参加者の半数以上がリピーターで、車中で1年目・2年目の話が聞けたことは良かったです。2日目、NPO未来ビレッジJAPANさんから「どうしても力を貸してほしい！」と言われ、半日、古民家再生の手伝いをし、まだまだボランティアの力は必要だと分かりました。山積みされた木々、半日で片付くのかと思ったけれど、マンパワーの底力!?!?すごいです。一人の力は小さくても皆でやれば大きな力になることに感動しました。民宿では海の幸をたくさんいただき、翌朝4時、じゃんけんにも勝った10人は漁師さんの船に乗せていただきました。ボランティアに来てこんなんでいいのかと思っていたら、今回5回目というシニア男性より「ボランティアは辛いことだけだと続かないよ。楽しいこともあるから、また行こうと思うんだよ」って。TVで見るだけで分からないこといっぱい。2年たってもまだまだボランティアは必要です。
- ・ 今回はプランター野菜づくりがメインだったので、肉体的労働を行ったという感覚はなかったのですが、直接仮設住宅に住む方たち（主に年配の方）との交流ができたので、すごく温かみを感じることでできるボランティアだったと思います。まだまだ周辺は整備が進んでおらず、家を失くした方たちが多いのですが、皆さんとても明るく過ごされているように思いました。けれども、実際は不便なことも多いと思います。がれきも山積みでたくさん残っており、長期的な復興支援が必要だとあらためて思い、私自身もまた次回への活動につなげていきたいと決心しました。自分ひとりでは成しえないことも、一つひとつの力が一緒になれば前進につながる。どんな小さなこともやり終えた後の達成感自分への大きな自信につながるということを今回学びました。「悩むよりもまず行動！」私は今後も支援を続けたいと思います。

